



ブレット・トレイン

2022年/アメリカ映画

配給：ソニー・ピクチャーズエンタテインメント/126分

2022 (令和4) 年9月3日鑑賞

TOHO シネマズ西宮 OS

監督：デヴィッド・リーチ
 原作：伊坂幸太郎「マリアビートル」
 出演：ブラッド・ピット/ジョーイ・キング/アーロン・テイラー＝ジョンソン/ブライアン・タイリー＝ヘンリー/真田広之

👁️👁️ みどころ

「ブレット・トレイン」＝「Bullet Train」＝「弾丸列車」と聞けば、かつて大日本帝国が支配する満州国で南満州鉄道（満鉄）が走らせた特急列車“あじあ”を彷彿させるが、本作のそれは東海道新幹線。

「潜水艦モノ」や「新幹線モノ」は面白い。「新幹線モノ」の代表は高倉健主演の『新幹線大爆破』（75年）だが、それに比べて本作の出来は？

伊坂幸太郎の原作を含めてこんな映画が大好きな人もいるだろうが、ブラッド・ピットや真田広之の熱演にもかかわらず、私にはイマイチ・・・。

——*——*——*——*——*——*——*——*——*——*——

◆私はクエンティン・タランティーノ監督の作品が大好き。『キル・ビル～KILL BILL～vol.1』（03年）（『シネマ3』131頁）、『キル・ビル～KILL BILL～vol.2』（04年）（『シネマ4』164頁）を観た時から、その魅力にハマってしまった。そして私は、その後の①『イングリッド・バスターズ』（09年）（『シネマ23』17頁）、②『ジャンゴ繋がれざる者』（12年）（『シネマ30』41頁）、③『ヘイトフル・エイト』（15年）（『シネマ37』40頁）、④『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド』（19年）（『シネマ45』137頁）も大好きだ。ハリウッドの映画監督の中でも、彼の日本好き、日本最良は突出しているが、ひょっとして本作のデヴィッド・リーチ監督もそうなの？

スタントマン出身で、過去にブラッド・ピットの代役を何度も務めたことがあるという彼は、ふざけたヒーロー映画『デッドプール2』（18年）で有名らしい。しかし、“その手の映画”があまり好きでない私は、それを観ていないし、彼の名前も知らなかった。また、本作の原作になったという日本の作家、伊坂幸太郎の『マリアビートル』も全然知らなかった。なぜデヴィッド・リーチ監督はそんな原作に興味を？そして、そんなB級映画（？）に、なぜブラッド・ピットが主役で登場することに？

◆事前に資料を読んだ限り、原作の『マリアビートル』も、そして『ブレット・トレイン』

とタイトルを変えて映画化された本作も、キャラの立った登場人物が次々と登場する、おふざけいっぱいのサスペンス映画！？したがって、どう間違っても、アガサ・クリステイ原作の本格的推理小説やそんな映画が好きな人にはおすすりできない映画？

もっとも、ブラッド・ピットは二枚目役はもとより、シリアスな役でもおふざけ役でも、なんでもござれだから、その“怪演”は期待できる。しかし、その他の俳優は？そう思っていると、なんと真田広之も出演しているから、すごい。なるほど、すると、こりゃひょっとしてタランティーノ監督ばりの快作に？そう思って、映画館へ。

◆「密室モノ」は面白い！したがって、「潜水艦モノ」と同じように「新幹線モノ」も面白い！「ブレット・トレイン」＝「Bullet Train」は弾丸列車の意味だが、その正体は日本の新幹線。原作は東北新幹線が舞台だが、デヴィッド・リーチ監督は伊坂幸太郎の原作を映画化するについて、舞台は日本の東海道新幹線にこだわりたい。それは一体なぜ？

東海道新幹線を舞台にした映画は高倉健の『新幹線大爆破』（75年）が代表だが、列車を舞台にすれば、密室である上、到着までの時間が限定されているから物語の進行のスピードが早くなるし、緊張感を維持しやすいのが利点。しかも、それが新幹線になると、停まる駅が少ないから、それをストーリー構成にどう生かしていくかもポイントになる。本作はのぞみを借り切って撮影したそうだから、列車内でどんな殺人が起きようと、また、いかに列車を潰してしまおうとそれは自由。ヘビの持ち込みも可能だし、殺し屋の乗り込みもフリーパスだ。

◆本作の主人公、レディバグ（ブラッド・ピット）に与えられた任務は、ブリーフケースを盗んで次の駅で降りるといふ簡単なミッション。東京駅で新幹線に乗り込み、指示されたブリーフケースを盗み、品川駅で降りようとしたが、アレレ……。意外や意外、彼の品川での下車は、“ある事情”でパーになってしまうことに。そして、元々「楽勝じゃん！」という設定だった任務は、その後「殺し屋しか、乗ってこねえ。」という展開が続き、京都駅で降りる頃には「最悪じゃん……」という結果に。

なぜ、レディバグは次々と乗り込んでくる殺し屋たちに命を狙われるの？また、狙われているのは彼の命？それともブリーフケース？そして、その中身は一体ナニ？それは、あなた自身の目で、しっかりと。夏休みの最後、頭を空っぽにして観るには最適かも！

なお、『キル・ビル』では、私が大好きだった梶芽衣子が歌う『恨み節』が効果的に使われていたが、本作では、米国でも『スキヤキ』として大ヒットした坂本九が歌った『上を向いて歩こう』や、カルメン・マキが歌って大ヒットした『時には母のない子のように』が効果的に使われているので、それにも注目！そんな音楽の使い方でも本作のテイストは、まさにタランティーノ色に染まっているが、その出来はやっぱりデヴィッド・リーチ監督より、タランティーノ監督の方が一枚上……？ 2022（令和4）年9月5日記

「ブレット・トレイン」(アメリカ映画・2022年)

洋2022-104 ★★★

<TOHOシネマズ西宮OS>

2022(令和4)年9月3日鑑賞

2022(令和4)年9月5日記

監督:デヴィッド・リーチ

原作:伊坂幸太郎「マリアビートル」

出演:

レディバグ/ブラット・ピット

プリンス/ジョーイ・キング

タンジェリン/アーロン・テイラー＝ジョンソン

レモン/ブライアン・タイリー・ヘンリー

キムラ/アンドリュー・小路

エルダー/真田広之

ホワイト・デス/マイケル・シャノン

マリア/サンドラ・ブロック

ウルフ/ベニート・A・マルティネス・オカシオ

ホーネット/ザジー・ビーツ

サン/ローガン・ラーマン

配給:ソニー・ピクチャーズエンタテインメント/126分